



第五卷 第四号

発行所 方城村公民館
編集所 荒木良印刷
印刷所 有限会社日講印刷
小竹町(旧西尾印刷有限会社)

◇原稿募集◇

- 一、論文随筆創作芸評論何でも建設的なもの(取捨は編集部に一任)
二、詩歌俳句川柳一人二首二句
三、投稿締切 毎月五日
四、投稿先 方城村公民館

昭和二十七年施政の構想

方城村長 松井 肝 太

多事多難な昭和二十六年度も年度末を迎え、本日は昭和二十七年通常予算村会を開会するはこびになりました。顧みますに四月選挙に不肖私が、本村首長の席をけがす事になりましたが、その後、キジヤ、ルースの二大台風に、或は近年にない農作物の不作に、非常に災害の多い年でありました。加うるに中学建設問題役場の増築、病院の拡充、或は公民分館の建設、又税制改革による家屋土地等、固定資産の評価、農業会館の内容整備、農業委員会制度の改革等多忙な一年でありました。この間地方自治にうとい浅学非才の私が決して優秀な成績ではありませんが、この一年を大過なくすし得ました事は決議機関の皆様御支援の結果と厚く御礼申し上げます。昭和二十七年年度予算の審議にあたり先ず私の施政の一端を申し述べたいと思ひます。

第一行政機構の改革であります。二月村会に於て議会からの強い要求により、一應定員条例の通り人員整理を断行し、現在国保の診療所を含め三十五名の事務職員でやっております。配給事務の縮小はあるものと思ひますが、本村は図書館、診療所、農業会館、保育園、技芸塾等、特殊な事業を行い、且土木行政に致しまして、赤地、糸田町より数倍の事業をやっております。関係上せめて三名程度の復活をお願い致します。当分は現人員で出来得る限り全力を尽してやっておりますが、議会の方も類似町村の実際を良く御調査相成たいと念願するものであります。保育園は現在十名の保母でやっておりますが、取容園児数に比較し保母人員が多いの御意見をききますが折角の社会福祉事業でありますので保母を充分増やし園児数の増加を期し、且目下督励中であります。もつとも終年の年から計算しまして二十六年は全般的に入園児童の減少の傾向でありましたが、昭和二十七年は増加する見込であります。技芸塾につきま

しては近來女子の洋裁和裁熱の旺盛さと家庭の主婦としての必須な教養教育でありますので、今後内容の充実につき充分考へてゆきたいと思ひます。次に各種委員会或は村費支弁の公的協議会等であり、法令による委員会に、本村独特の委員会乃至協議団体等二十七を数える多数を抱えておりますが、是に關する村費支弁は相当額にのぼりますので、是等の委員会協議会の合理化と構成を再検討し経費や人員の縮小も考えたいと思ひます。

第二文教施設であります。前村長時代より本村は文化村との宣伝が非常にきまされて数多くの視察者等も相次いでおりますが、方城村の存在を天下に宣伝するには結構な事と思ひます。しかし乍ら費をすて実を獲るにはいまだたの感が深いのであります。内容も充実し、実力にみちた方城村建設こそ私の念願する処であるので、公民館活動にせよ、文化施設の充実乃至分館活動の促進、或は学校経営にしても、実際に即應した所謂花のみでなく立派な実を結びたいと思ひます。

第三、施設も活動も先だつものは金であります。今村財政を顧みみますに昭和二十六年度本村、税収入は非常に恵まれました。即ち、村民税一〇〇〇万円、固定資産税一〇〇〇万円、釐産税、七五〇万円、その他税、八〇万円、合計二、八、二〇〇万円の税収が見込まれています。これがありまして、中学建設に四三〇〇万円、分館建設助成に二六五万円、役場増築に四八〇万円、火葬場建設に五〇〇万円、計八、八〇〇万円からの臨時村費支弁の事業を実施いたしました。もつとも二〇〇万円の繰越金は期待出来ず、尙昭和二十六年、地方財政特別平衡交付金として、一五〇万三千円交付の通知があり、非常に嬉んでいる事を併せてお知らせいたします。

(二頁下段へ)

昭和三十七年度は中央に於ける地方税制改革の雲行からみず、村民税に於て、課税基礎となる所得税が基礎控除、扶養控除の引上げにより所得税の減少と法人税割の課率変更等による減収及固定資産税の家屋評価額の再査定による減収が予想され相当非観的であります。税収の実見込は年度半に於ては其の線もはつきりするものと考えられます。

第四、本年度に於ける主たる事業の構想であります。第一に中学建設の完成の年といたしたいと思ひます。が、如何せん現在のところ財政の都合上、或は一部昭和二十八年年度に見送らねばならない事になりはせぬかと思つております。弁城校の増築問題も地元多年の懸案の事として是非実現したいと考へます。幹線道路の件も特別委員会が出来まして、約一カ年を経過いたしました。未だ具体化しておりませんが、向一層の研究と経費の捻出をはかりたいと思ひます。伊加里、直方線県道の改修工事にも果に猛運動をする事により尙継続をはかりたいと思ひます。

以上のような観点から、本年度当初予算の編成にあたりましたが、その大要を申しあげたいと思ひます。大体、特に臨時的支出を要する向以外、即ち經常的予算は、ほとんど当初に於て編成いたしました。極力収入財源と将来の臨時的支出とを勘案たしまして編成いたしましたので、学校も、公民館も産業費も、役場費も極力追加はされたいと考へて、尙将来の執行に万全を期する思ひであります。

第二款役場費は殆んど經常予算であります。第三款、消防警察費では本村は本年消防出初式の引受けにたつておりますので、この大村に一台の機動用消防車のない事は不時の火災発生時は勿論本村の対面上からも、是非整備してほしいとの消防委員会や消防団の強い要望もありましたので、小型消防車購入費一台分九万五千元を万難を排して計上しました。

第四款土木費は文化は道路から申します。従来予算の都合上、經常的道路橋梁費は僅少でありましたので、約倍額計上いたしました。又水路費で、野地水路八万円、朝倉水路三万円、新町池仕掛暗渠取替費二五、八〇〇円を計上いたしました。が、何れも水路としては灌漑面積も広範に亘り幹線の水路でありましたので、こゝに計上いたしました。

第五款教育費では伊方、弁城、中学三校分は学級数や生徒数を勘案し、又中学校はその特異性も考へて費用を計上いたしました。が、大体例年に比し相当考慮を払つておりますので、本程度で一年間やってもらいたいと思ひます。

中学校費で施設費四百万円計上してあります。大体五百万円あれば一段落つくものと予想されましたが、これも如何せん、財政上一部次年度にまわす計画で計上いたしました。第六款の社会及労働施設費は遺族会の負担が、約九万円計上してあります。が、終戦後めぐまれざる遺族に対しては、多少少し考慮を払いたいと考へてあります。

第七款、保健衛生費は昨年実績より相当額見込みましたが、近頃赤痢患者が続発の傾向にあり、尙現在取容患者十名を取容してありますが、四月以降まで取容しなくてはならず、且つ三菱勝田坑の例もありますので、予防に重点をおき計上いたしました。